

小學修身鑑

平井參編著

卷四

館籍書會育教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函

60	一
547	四

K120.1
4

明治十七年十二月廿五日内務省交付

小學修身鑑卷の四

平井參編次



馬融ノ語

○人の行、忠孝より大なるハなし、

說苑

○忠孝ハ、百行の寶なり、

一

初學訓

○忠孝の道をつとむるハ、人道の犬節なり、

揚城語

○凡そ學者ハ、忠と孝とを爲ること、を學ぶも急んなり、

馬融語

○忠ハ、よく君臣をかたくす、

岳飛語

○國の厚恩を荷ふ、當よ、忠義

伊訓語

をもつて、國よ報ゆべし、

後漢書

○下となりてハ、よく忠せよ、
○夫れ、孝ハ、百行の本、衆善の

をじめなり、

孝經義

○百行萬善ハ、みな、孝よ、もと

づく、

孝經義 卷之四 忠孝

元正天皇ノ語

○士よ、百行有り、孝敬を先キとす

ボンヌノ語

○子たるものハ、よく、父母の命を、まもるべし、

孝經

○罪ハ、不孝より、大なるハなし、

愛敬

愛といは、心つくしむことよて、敬といは、うやまふことなり、としようへの人ハ、とこしまたの人を、心つくしみ、年またのものいとしうへのものを、うやまふべし、

初學知要

○凡そ、人よまじをるふハ、愛敬をもつて、道とす、

初學訓

○愛敬の二ハ、をべて、人よま

三

じをるの心法なり、

初學訓

○善を行ふよハ、愛敬の心を、
本とすべし、

實語教

○老をうやまふハ、父母のお
とくす、

實語教

○幼を以つくしむハ、子弟の

如くす、

大和俗訓

○長者ハ、幼をめぐみ、幼ハ、長
者をうやまふべし、

禮記

○父母の以つくしむと、
ハ、また、おれを愛む、

禮記

○父母のうやまふ所ハ、また、

孝經 卷之四 四 孝經 卷之四

之を敬ふ

孝經

○親を以つくしむものハ、何へて、人をふくまず、

孝經

○親をうやまふものハ、敢て、人を阿などらば、

孟子

○人を以つくしむものハ、人

つねよ、おれを愛む、

同

○人をうやまふものハ、人つねよ、之を敬ふ、

兄弟

○兄弟ハ、同胞の志たしむ、父

初學訓

母よ、つぎたる、天倫なり、

賢文書

○兄弟、やもらがざれば、旁人
何ぞむく、

詩經

○兄弟、すてよ、かなへば、和樂
して、且だのしむ、

左傳

○兄弟ハ、まこしの忿、何りと
も、懿親を廢てず、

翁問答

○弟ハ、悌を以て、兄よ事ふる
道とす、悌ハ、敬ひ順ふ徳なり、

同

○兄ハ、惠を以て、弟を率ゆる
道とす、惠ハ、友愛の二義をか
ねあり、

論語

○孝悌ハ、身を立つるの本な

童子訓

り、
○孝悌の二ツハ人の行の根本
なり、

學問

慎思錄

○人生れて學をざれば、生れ
ざるのとたなじ、

同

○學びても、道をしらざれば、
學むざると同じ、

大和俗訓

揚子法言

○人當ふ有用の學を、なすべ
し、無用の學を、爲すべからば、
○學をつとむるハ、師をおと
むるよ如らず、

呂子

○よく學ぶもの
 人の長を假り
 て、もつて、その短
 を補ふ、
 ○學ハかならず、
 心を潜めて、然し



劉基ノ
語

同

實語教

傳家寶

て後、もつて、得ある處し、
 ○藝ハよく、時よならふて、然
 して後、徒勞となさず、
 ○書を讀みて、倦むことなか
 れ、

○益なきの書ハ、讀むことな

八
 錦標閣藏

ボツク
ストン
ノ語

倪文節
ノ語

同

かれ、

- 一書を、読みををらざれば、
- 他書を、読み起すべからば、
- 書を讀むと、一卷なれば、
- 一卷の益あり、
- 書を觀ること、一日なれば、

孟子

- 一日の益あり、
- 飽食煖衣、逸居して、教なき
- れば、禽獸よりちかし、

言行

言といふとばよて、行といふをなひを
りふとばのおおくして、おこなひの、を
くなきへ、おこなひのおおくして、おと
ばの、すくなきよねとるべし、人いとか

く夫とむとねみなひと一致するやう、
心がかかるが第一なり。

傳家寶

○一言を多くせんより、む
しろ、一言を少くせよ。

同

○一事を増さんより、寧ろ、
一事を減せよ。

初學知要

○人の言行ハよく、むじめよ、

西疇常言

つゝしめば、ををりよ、悔なし、
○禍の生ぞる、天より降るよ
何らず、みなその口よりす、

易經

○君子もつて、言語をつゝし
み、飲食を節す、

傳家寶

○念善よ何らざれば、擧ぐる

小と成るれ、

○益なきの事ハ、なすことな

るれ、

○口を、まもる小と、瓶の如く、

意を防ぐ小と、城の如くせよ、

○人の聞くなきを、欲せむ、言

同

名臣言行録

救乘ノ語

ふなきよ、若くハなし、

○人の知るなきを、欲せむ、爲

すなきよ、若くハあし、

○人として、一言も、悪き事を、

語るべらば、

○言と、行どよ、玷つく小とな

同

藤原小黒麻呂ノ遺訓

女訓孝經

小と成るれ、
十
金

多れば、婦人の禮義をなせりて、辱めらるゝ事となし。

勤儉

○貧者も勤よふりて、富み、賤者も勤よふりて、貴し。

○逸を、夫のみ、勞を、よくむこ

齊家寶要

賢文書

となのま

同

○はじめ、勤めをもち、惰る事となかれ。

省心雜言

○少くして、勤苦せざれば、老て、かならず、艱辛す。

同

○少くして、勞よ服をれば、老

カンベ
ルラン
ドノ語

賢文書

関尹子

て、必ず、安逸なり、
○ 銹て、くさるゝよりハ、さり
へる末とを、よしと云、

○ 貴ハ、勤中より得、富ハ、儉裡
より來る、

○ よく、小物を積み、然して後、

諱子

傳家寶

寒松堂
集

能く、大物をなす、

○ 奢るものハ、心、つねよ、貧し
く、儉なる者ハ、心、常よ、富む、

○ 福ハ、清儉より生ず、

○ 一分の奢侈を、去れむ、をな
むち、一分の罪過を、少くす、

ペイコ
シノ語

スマイ
ルノ語

○ 儉節の要道ハ、小利よ、意を注がんよりハ、小費を省くよ若るず、

○ 節儉ハ、家事を治むる精神なり、

懲忿 窒欲

懲忿といひまの、いかりよありて、のちの、いかりをいましめつゝ、しむことなり、人ハ、つねよ、いからぬやう、心がくべし、いかりてハ、のちかならず、くゆるおとあるべし、西洋のおとわざよ、いかりハ、一時のまぢぢひ、といへるおと、いりふかくつゝ、しまざるべからん、いづく、いましめざるべうらば、窒欲といひ、よくをすくあぐすることなり、ことハ、前よ見ゆ、

周易

○ 忿を、おらし、欲を、ふせぐ、

朱子ノ
語

○懲らすといひ、今よ、去りて、後
よ、戒むなり、

同

○窒ぐといひ、去れを、遏め、た
ちて、行を、ざらじむるなり、

蔡節齋
ノ語

○忿ハ、則物ヲを、じノのぎ、欲ハ、則
己を、たぼらす、

建安丘
氏ノ語

○忿欲ハ、わが身、愛惡の、私な
り、

主父偃
ノ語

○忿ハ、凶徳なり、

傅家賢

○以かる時の言ハ、多く、信を
うしなふ、

曹孟徳
ノ語

○怒るも、容を、變せず、喜ぶも、

孟子 卷之四 忠恕 十六

節を失えど、

孟子

○心をやしなふに、欲を寡うするより、善きハなし、

鬼谷子

○欲多きれば、志をち、心散す、心散すれば、則、志衰ふ、

善誘文

○欲を、まくなくすれば、身を

たもつ、

朱子ノ語

○思へば、もつて、欲も勝つべし、

忠恕

忠といまざらるるといふことよて、恕といおもひやりといふことなり、せけんのことわざよ、わがみつねりて、人のいたさをしれといふハ、すなをち、忠

十六 帛本目録

忠臣蔵 巻之四 金井清兵衛

論語 註

○己が心をつくすを忠といふ、

のふとなり人のいぢむらくも、闕くべからざるもの、忠恕なり、

同

○己を推して人よ及ぼすを、恕といふ、

蘇軾 語

○忠恕をもつて、心となせ、

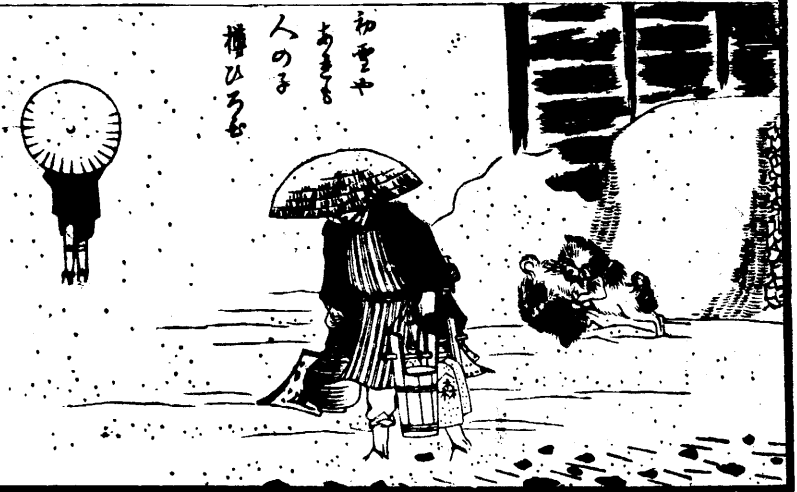
論語

○己が欲せざる所ハ人よ施すふとなれ、

中庸

○忠恕道をさるふと、遠からず己よ施して、願むざ

初雪や
あまの
人のま
構ひろか



忠臣蔵 巻之四

省心雜言

同

徳川家康ノ壁書

れむ、人よ施を亦となかれ、
 ○人をせむる者ハ、交をまつ
 たうせび、
 ○自ら、怒する者ハ、過を阿ら
 ためず、
 ○己を、せめて、人を、責むる亦

傳家寶

同

となかれ、
 ○人を、せむるの、心を以て、己
 を、責むれば、則過をくなし、
 ○己を、怒するの、心を以て、人
 を、怒すれば、則交をまつたう
 ず、

徳川家康ノ壁書
 卷之四
 十八
 傳家寶

K120.1

小學校修身鑑卷之四

金沢府

小學修身鑑卷の四 終

明治十九年七月十日版權免許價七錢

編者

東京府士族

平井三郎

本所區本所緑町三丁目十九番地

出版人

東京府平民

鹿島長二

日本橋區箱崎町二丁目十八番地

發行書肆

東京馬喰町二丁目一番地

石川治兵衛

千葉本町壹丁目四番地

石川代理店立真舎

福島縣福島南裏一丁目

石川支店

小學修身鑑

平井參編著

卷五

館籍出會育教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函

60
547
一
四

K120.1
5